

平成23年度 北九州市立高須中学校 「自己評価・学校関係者評価結果報告書」

北九州市教育委員会
指導第一課長 大竹 順司 様

北九州市立 高須 中学校
校長 江口 満 印

本年度の重点目標			
重点目標 1	基本的生活習慣、学習規律・集団規律・家庭学習習慣の確立を図る。	重点目標 5	感動体験できる教育活動を創造し、集団の力を高める特別活動・キャリア教育・人権教育を推進する。
重点目標 2	基礎・基本の確実な定着、確かな学力の向上を図る学習指導の工夫改善を推進する。	重点目標 6	楽しい学校生活を実現し、一人一人の自己指導能力を育成と自己実現を目指す積極的な生徒指導を推進する。
重点目標 3	生徒一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実を図る。	重点目標 7	生涯を通じて心身ともに健康で活力ある生活を送るための健康教育を推進する。
重点目標 4	学校図書館の機能の充実と計画的な利用を推進し、望ましい読書習慣の形成を図る。	重点目標 8	学校のおよさや特色を積極的に発信し、保護者や地域住民から信頼される開かれた学校づくりを目指す。

No.	中長期目標	短期目標	担当	指標	評価基準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点		
①	基本的生活習慣（「挨拶・掃除・身なり」と「早寝・早起き・朝ご飯」）、学習規律・集団規律・家庭学習習慣の確立を図る。	基本的生活習慣の確立を図る。	生徒指導	さわやかな挨拶ができるように、朝の挨拶運動に力を入れる。	A 90%以上の生徒が挨拶できる。	生徒が自主的に挨拶をするように指導した。中間No.1	3.5	A 自分からすすんで挨拶をする。	3.2	A 自分からすすんで挨拶をする。	3.3	毎朝、登校時に職員による登校指導を実施した。また、生徒会執行部によるあいさつ運動を定期的実施した。	登校のみならず、日常生活の中でも積極的に元気なあいさつができるような生徒の育成をめざす。		
					B 70%以上の生徒が掃除できる。			B 時々自分から挨拶をする。		B 時々自分から挨拶をする。					
					C 50%以上の生徒が挨拶できる。			C 声をかけられれば挨拶をする。		C 声をかけられれば挨拶をする。					
					D 挨拶ができる生徒は50%未満である。			D 挨拶をしない。		D 挨拶をしない。					
			美化委員会	職員が模範となって清掃指導に取り組み、清掃に対する生徒の意識を高めていく。	A 90%以上の生徒が掃除ができた。	毎日の清掃指導を行った。中間No.2	3.9	A 自分からすすんで掃除をする。	2.3	A 自分からすすんで掃除をする。	2.6	A 自分からすすんで掃除をする。	3.2	全職員による清掃指導を徹底し、協働して取り組むことができた。	委員会の活発な活動を促し、生徒主体のより意欲的な取組ができるように指導する。
					B 70%以上の生徒が掃除ができた。			B 時々自分から掃除をする。		B 時々自分から掃除をする。					
					C 50%以上の生徒が掃除ができた。			C 言われると掃除をする。		C 言われると掃除をする。					
					D 掃除ができる生徒が50%未満であった。			D 掃除をしない。		D 掃除をしない。					
			生活委員会	登校指導中や朝の会、授業中などで呼びかけを行い、身なりをきちんと整えるよう指導する。	A 90%以上の生徒がきちんとしている。	生徒の身なりの指導をした。中間No.3	3.8	A 自分からすすんで掃除をする。	2.3	A 自分からすすんで掃除をする。	2.6	A 自分からすすんで掃除をする。	3.5	登校指導時や朝の会、授業に行ったときなどに常に気がついたときに服装の乱れなどを指導した。	細かい部分のルールやきまりが徹底できていない面があったので、職員の共通理解のもとで改善を図る。
					B 70%以上の生徒がきちんとしている。			B 時々自分から掃除をする。		B 時々注意されることがある。					
					C 50%以上の生徒がきちんとしている。			C 言われると掃除をする。		C 注意されることが多い。					
					D きちんとしている生徒が50%未満である。			D 掃除をしない。		D 注意されても直さない。					
保健委員会	保健だより等で早寝・早起き・朝ご飯運動を推進することにより、基本的生活習慣の大切さを認識させ、実践できるように指導する。	A 実施生徒が90%以上であった。	学校は、早寝・早起き・朝ご飯運動の啓発を行った。中間No.4	2.8	A 毎日、早寝早起きをする。	3.7	A 毎日、早寝早起きをする。	2.9	A 毎日、早起きをする。	3.7	健康観察や保健室の様子から個別に健康指導を行った。また、保健委員会の取組として睡眠時間について調べ発表した。	基本的生活習慣を整える事がなぜ必要であるかを具体的に示すことで、夜型的生活習慣が変容するように働きかける必要がある。			
		B 実施生徒が70%以上であった。			B ほぼ毎日、早寝早起きをする。		B ほぼ毎日、早寝早起きをする。								
		C 実施生徒が50%以上であった。			C 早寝早起きができないことが多い。		C 早寝早起きができないことが多い。								
		D 実施生徒が50%未満であった。			D 早寝早起きができない。		D 早寝早起きができない。								
②	学習規律・集団規律・家庭学習習慣の確立を図る。	学習規律・集団規律・家庭学習習慣の確立を図る。	生活委員会・生徒指導・学習指導委員会	学校生活委員が遅刻点検をするなど、生徒会活動と連携して、継続的に指導を行う。	A 90%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。	時間（遅刻をしない・チャイム席・集合時間等）を守るように指導した。中間No.5	3.8	A 毎日、早寝早起きをする。	2.4	A 毎日、早寝早起きをする。	3.2	登校指導や始業時間の指導などを職員が意識して声かけを行った。	登校指導の声かけや全職員の意識を向上させ、一層の充実を図る。		
					B 70%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。			B ほぼ毎日守れる。		B ほぼ毎日守れる。					
					C 50%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。			C 時々守れないことがある。		C 時々守れないことがある。					
					D 登校時間やチャイム席を守れた生徒が50%未満であった。			D 守れない。		D 守れない。					
			生徒指導	各教科で宿題を出し、家庭学習の習慣が身に付くよう指導する。	A 90%以上の生徒が宿題を行った。	家庭学習の習慣が身に付くように指導した。中間No.6	3.1	A 家庭学習を週7時間以上する。	2.4	A 家庭学習を週7時間以上する。	2.4	A 家庭学習を週7時間以上する。	2.4	生徒の状況に応じて、課題を設定し、提出させて指導を行った。	提出された課題をどのように評価に反映させていくか検討を継続して行う。
					B 70%以上の生徒が宿題を行った。			B 家庭学習を週3時間以上7時間未満する。		B 家庭学習を週3時間以上7時間未満する。					
					C 50%以上の生徒が宿題を行った。			C 家庭学習を週3時間未満する。		C 家庭学習を週3時間未満する。					
					D 宿題を行えた生徒が50%未満であった。			D 家庭学習を全くしない。		D 家庭学習を全くしない。					
			生徒指導	学習道具を毎日持ち帰らせ、家庭学習への意識を高めるよう指導する。	A 90%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。	学習道具は毎日持ち帰らせるとともに、忘れ物をしないように指導した。中間No.7	3	A 忘れ物をしない。	3.2	A 忘れ物をしない。	3.1	A 忘れ物をしない。	3.1	帰りの会などを利用して、持ってくるものを確認し、学習道具の持ち帰り、忘れ物がないように指導した。学期末などに持ち帰りを徹底した。	生徒の学習意識を向上させていくために具体的な取組設定が必要である。
					B 70%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。			B 時々忘れ物をする。		B 時々忘れ物をする。					
					C 50%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。			C 忘れ物をすることが多い。		C 忘れ物をすることが多い。					
					D 毎日学習道具を持ち帰った生徒が50%未満であった。			D 毎日忘れ物をする。		D 毎日忘れ物をする。					
生徒指導	全校集会・学年集会や講演会などで集団規律の指導を行う。	A 集会の時、整列して私語がない生徒が90%以上であった。	集団としての規律（整列・私語・集合時間）やマナーが身に付くように指導した。最終No.3	3.4	A 家庭学習を週7時間以上する。	2.4	A 家庭学習を週7時間以上する。	2.4	A 家庭学習を週7時間以上する。	2.4	集団としての規律マナーが身に付いている。最終No.3	人の話を聞くときの姿勢・態度について、頭をあげてきちんと話の内容に耳を傾けることを強く指導する。			
		B 集会の時、整列して私語がない生徒が70%以上であった。			B 子どもさんは、集団としての規律やマナーが身に付いている。最終No.3		B 子どもさんは、集団としての規律やマナーが身に付いている。最終No.3								
		C 集会の時、整列して私語がない生徒が50%以上であった。			C 集会の時、整列して私語がない生徒が50%以上であった。		C 集会の時、整列して私語がない生徒が50%以上であった。								
		D 集会の時、整列して私語がない生徒が50%未満であった。			D 集会の時、整列して私語がない生徒が50%未満であった。		D 集会の時、整列して私語がない生徒が50%未満であった。								
③	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、確かな学力の向上を図る学習指導の工夫改善を推進する。	学校の研究テーマ「全ての子どもに基礎学力を定着させることを目的とした学習活動の工夫」に基づく学習指導の工夫改善を推進する。	指導主事を要請した授業研究を行い、専門性と指導力を高める。	A 90%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。	わかりやすい授業を心がけ、授業の工夫・改善に努めた。最終No.4	2.9	A 90%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。	2.5	A 90%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。	2.8	授業が工夫されていてわかりやすい。最終No.6	全教科による指導主事を要請した授業研究を実施し、授業力の向上のため最大限努力した。			
				B 70%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。			B 70%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。								
				C 50%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。			C 50%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。								
				D 指導主事を要請した授業研究を実施した教科が50%未満であった。			D 指導主事を要請した授業研究を実施した教科が50%未満であった。								
④	生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を克服する特別支援教育の充実を図る。	将来の就労に向けて、好ましい人間関係を自らつくることができるような学級集団づくりを行い、協調性と思いやりの心を育てる。	調理実習や奉仕活動、体験活動を通じて協調性や思いやりの心を育てる。	A 学期に2回程度実施できた。	生徒が授業中、集中して学習に取り組めるような指導・環境整備を行った。最終No.4	3.5	A 学期に2回程度実施できた。	2.9	A 学期に2回程度実施できた。	2.9	授業中、集中して学習に取り組んでいる。最終No.4	実習や校外活動、体験活動を実施し、コミュニケーション能力や社会性を学ばせる事ができた。			
				B 学期に1回実施できた。			B 学期に1回実施できた。								
				C 年間で1回実施できた。			C 年間で1回実施できた。								
				D 実施できなかった。			D 実施できなかった。								
⑤	学校図書館の機能の充実と計画的な利用を推進し、望ましい読書習慣の形成を図る。	学校図書館の常時開館を目指す。	学校図書館職員とブックヘルパーを活用し、常時開館できる体制をととのえる。	A 毎日開館することができた。	学校は、読書の習慣が身に付くように指導した。中間No.8	3.6	A 毎日開館することができた。	2.9	A 2週間に一冊程度本を読む。	3.1	A 2週間に一冊程度本を読む。	ブックヘルパーの協力もあり、常時開館を実施し、生徒の読書活動の推進を進めた。			
				B 週3回開館することができた。			B 1ヶ月に一冊程度本を読む。		B 1ヶ月に一冊程度本を読む。						
				C 週2回開館することができた。			C 3ヶ月一冊程度本を読む。		C 3ヶ月一冊程度本を読む。						
				D 週1回開館することができた。			D 本を読まない。		D 本を読まない。						

学校関係者評価	
全体評価	◎評価の低いところにこだわりのではなく、高いところを特性として伸ばしていくという取組が、大変良いと思います。今後に期待します。
1	◎あいさつを積極的に行ってくれる生徒の皆さんが増えてきています。
学校が設定した教育目標・中長期目標・短期目標・指標等について	◎学校の教育目標が、最終的に「指標」として具体化されて、指導の手だてが明確で非常に分かりやすいです。
2	◎基本的生活習慣を身に付けてこそ、学習や運動に励むことができるので、保健指導の取組の大切さを改めて考えさせられました。
目標、指標に照らして、学校が取り組んだ自己評価項目（評価基準・教職員自己評価・保護者アンケート・生徒アンケート）について	◎学校評価アンケート（最終）の「授業の集中」については、保護者として評価しにくい質問項目ではないでしょうか。
3	◎学校開放が増えて、保護者が参観する機会が多くなったとしても、平素の授業の雰囲気と異なるのではないかと考えます。
◎職員・保護者・生徒の評価が一致していくよう取り組んでほしいです。	◎生徒会活動が、先生方の思いが生徒に届いていないのではないかと考えます。
◎「分かりやすい授業」について、先生方の評価が低いことが気になりました。	◎学校が取り組んだ自己評価結果の考察、次年度改善策について
◎環境教育の推進として、今年度はペットボトルキャップや古紙の回収を実施し、次年度も継続となっているが、更に、海岸の清掃活動（漂流物～岩屋・脇田）を体験させてほしいです。	◎生徒指導の次年度改善点として挙げている「人の話を聞く際の姿勢・態度の指導の徹底」は大切です。
◎「聞く時の姿勢」は、小学校の段階で育てるべき態度ではあるが、中学校でも指導しなくてはならない時代になったと思います。	◎本校の教育活動、その他の学校運営について
◎生徒会活動として被災地への支援活動は、是非、今後も継続してほしい。日本人として、仲間として（同僚）の連帯感を醸成することになると思います。	◎校長通信「ジャガイモ」をいつも楽しみに読ませていただいております。地域住民として、体育活動、つまり部活動にも関心があります。高須中学校体育館やグラウンドで行われる夏休み中の中体連（区内）の大会日程・種目を「ジャガイモ」に記載してほしい。
◎校長先生のごまかな情報発信が楽しみであり、ありがたいです。	◎次年度から高須市民センターで行われるもちつき大会への参加を検討願います。
◎年末、青葉地区のもちつき大会で、部活動の生徒さんに参加していただき、ありがとうございました。	◎「ケース会議」の開催の際、学校の先生方だけではなく、主任児童員や保護司の方々の参加が望まれます。

上段・・・達成度
下段・・・重要度

No.	中長期目標	短期目標	担当	指 標	評 価 基 準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点	
④	学校図書館の機能の充実と計画的な利用を推進し、望ましい読書習慣の形成を図る。	朝の10分間読書に取り組む。	学校図書館教員	全校一斉の朝の10分間読書に取り組み、生徒の読書習慣の定着を図る。	A 90%以上の生徒が朝読書を真面目に取り組んだ。							年間を通して、全校一斉の朝の10分間読書を実施し、生徒の読書習慣の定着を図ることができた。	朝読書により、生徒の読書習慣の向上が見られるため今後も取組を継続していく。	
					B 70%以上の生徒が朝読書を真面目に取り組んだ。									
					C 50%以上の生徒が朝読書を真面目に取り組んだ。									
					D 朝読書を真面目に取り組んだ生徒が50%未満だった。									
⑤	集団の力を高める特別活動、勤労観・職業観を育てるキャリア教育、人権教育を推進する。	生徒会活動(生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等)の充実を図る。	生徒会	生徒会活動(生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等)への参加意識を高める。	A 生徒会活動(委員会活動、リサイクル活動等)に90%以上の生徒が呼びかけに応じて協力し、70%以上の生徒が呼びかけに応じて協力し、50%以上の生徒が呼びかけに応じて協力し、生徒会活動(委員会活動、リサイクル活動等)の呼びかけに応じた生徒が50%未満であった。	3.5		子どもさんは、生徒会が行っている活動(生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等)に関心をもち、協力している。最終No.6	2.5	生徒会が行っている活動(生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等)に関心をもち、協力している。最終No.6	2.6	たよりなどで学級に取組の周知を行い、活動への参加を促した。「人生一冊プロジェクト」では本の寄贈を呼びかけ、多くの本が集まった。	震災復興の支援を次年度も計画し実行していきたい。	
					B 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施し、指導の充実を図った。									
					C 調べ学習および体験学習を計画的に実施した。									
					D 調べ学習および体験学習を計画的に実施しなかった。									
	キャリア教育(勤労観・職業観)の視点に立った進路指導の充実を図る。	特別活動	職業調べ、農村宿泊体験学習、高校調べ、高校体験入学等を計画し継続的に行う。	A 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施し、指導の充実を図った。									職業調べや高校調べ、高校体験入学などを計画的に実施した。	調べ学習、体験学習の充実を図る。
				B 調べ学習および体験学習を計画的に実施した。										
				C 調べ学習および体験学習を計画的に実施した。										
				D 調べ学習および体験学習を計画的に実施しなかった。										
	人権教育講演会を行い、人権意識の高揚を図る。	人権教育	人権教育講演会の充実を図る。	A 人権教育講演会を開催し、事後学習を行った後、全生徒に感想文を書かせた。	人権教育講演会の充実を図めた。								てんつくマンによる「奇跡は起こり連鎖する」の講演を行い、生徒がよりよい人権感覚を身につける機会を設定した。	生徒の心に響く題材の選定に努める。
				B 人権教育講演会を開催し、事後学習を行った。										
				C 人権教育講演会を開催した。										
				D 人権教育講演会を行うことができなかった。										
⑥	好ましい人間関係を育て楽しい学校生活の実現を図るとともに、組織的な生徒指導体制の確立(報告・連絡・相談・確認・記録)と家庭・地域・関係機関等との連携を推進しながら、教育活動全体を通して生徒一人一人の自己指導能力を育成し、自己実現を目指す積極的な生徒指導を推進する。	好ましい人間関係を育て楽しい学校生活の実現を図る教育活動(不登校対策、心のアンケート)を推進する。	生徒指導	S.Oや関係職員と連携し、学級担任や生徒指導係が家庭訪問や電話連絡を行い予防を行う。	A 関係職員が週2回以上不登校生徒宅の家庭訪問を実施した。	3.3		子どもさんは、毎日楽しく学校に行っている。最終No.1	3.1	毎日楽しく学校に行っている。最終No.1	3.4	電話連絡、家庭訪問を通して不登校生徒の状況把握に努め、職員の共通理解を行った。	定期的な家庭訪問の実施や不登校生徒を生じさせないための家庭連絡・家庭訪問の在り方について検討し、共通理解のもとで実施する。	
					B 関係職員が週1回不登校生徒宅の家庭訪問を実施した。									
					C 関係職員が月に1回以上不登校生徒宅の家庭訪問を実施した。									
					D 関係職員が不登校生徒宅の家庭訪問を実施しなかった。									
	心身のアンケートを実施する。	心のアンケートを実施する。	A 心のアンケートを毎月1回程度実施し、生徒指導に活用できた。										「いごちのよいクラスにするために」のアンケートを実施し、個々の生徒の状況を把握し、生徒指導に有効に活用した。	Q-Uアンケートも含めて生徒の実態把握のための心のアンケートの在り方について再検討し、月1回程度の実現をめざす。
			B 心のアンケートを学期に1回程度実施し、生徒指導に活用できた。											
			C 心のアンケートを年間1回実施し、生徒指導に活用できた。											
			D 心のアンケートを実施しなかった。											
	危機管理意識を高める「生徒指導マニュアル・危機管理マニュアル・不審者対応マニュアル」の徹底を図る。	危機管理意識を高める	危機管理マニュアルを周知徹底し、危機管理意識を高める。	A 危機管理マニュアルを配布し、周知徹底するために不審者対応の研修会を行った。	危機管理マニュアル・不審者対応マニュアルなどに沿って安全点検を行った。最終No.7	3.1		学校は、施設面や不審者等の外部からの侵入者に対して安全・安心である。最終No.7	2.7	学校は、安心・安全である。最終No.7	3.0	危機管理マニュアルの見直しを行って修正を加え、より充実したマニュアルを作成し、職員に周知徹底した。	マニュアルに沿った対応ができるように、共通理解や実践形式の研修会を実施して、職員の危機管理意識をさらに高める。	
				B 危機管理マニュアルを全職員に配布し、周知徹底した。										
				C 危機管理マニュアルを全職員に配布した。										
				D 危機管理マニュアルの周知徹底に至らなかった。										
⑦	生涯を通じて心身ともに健康で安全な活力ある生活を送るための健康教育(学校保健・学校安全・食育)を推進する。	地震・火災を想定した避難訓練、不審者対応の避難訓練を実施する。	安全指導	若松消防署と連携した地震・火災を想定した避難訓練を年間2回実施する。	A 若松消防署と連携した避難訓練を年間2回実施した。							防災訓練を2度実施し、消防署職員を召還して防災に関する講演会を行った。	外部から講師を召還しての取組は継続していく。また、年度当初から計画的に行事に取り入れていく必要がある。	
					B 若松消防署と連携した避難訓練を年間1回実施した。									
					C 年1回の避難訓練を実施した。									
					D 避難訓練を実施しなかった。									
	救急救命講習会を開催する。	救急救命講習会を開催する。	A 消防署の方を講師に招いての職員・生徒向けの救急救命講習会を年間2回実施した。										全学年、全職員を対象に講師を招いての救急救命講習会を開催することができた。	今年度の取組に継続して実施していく。
			B 消防署の方を講師に招いての生徒向けの救急救命講習会を年間1回実施した。											
			C 救急救命講習会を年間1回実施した。											
			D 救急救命講習会を実施できなかった。											
	食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化などを身につけることができるような活動を実施する。	給食・委員会	牛乳パックの減量化と残食の減量化を推進する。	A 牛乳パックと残食がかなり減量化された。									厚生委員会により、牛乳パックと残食の減量化を促す啓発活動を実施した。	良い取組をしているクラスを表彰するなどの褒める活動を取り入れる必要がある。
				B 牛乳パックと残食が概ね減量化された。										
				C どちらかは概ね減量化された。										
				D どちらも減量化に至らなかった。										
⑧	学校の教育目標の具現化を目指し、教職員の意欲が向上する学校評価システムの構築を図る。	学校の教育目標の具現化を目指し、教職員の意欲が向上する学校評価システムの構築を図る。	教務	生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施し公開する。	A 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施し公開した。							計画通り、生徒・保護者・職員を対象に年2回のアンケートを実施した。	次年度も継続して取組を行っていく。	
					B 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施した。									
					C 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間1回実施した。									
					D 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを実施しなかった。									
	学校関係者評価委員会の活用を図る。	学校関係者評価委員会の活用を図る。	A 学校関係者評価委員会を年2回実施し、その評価を公表した。										計画通り、学校関係者評価委員会を年間2回実施した。	次年度も継続して取組を行っていく。
			B 学校関係者評価委員会を年1回実施し、その評価を公表した。											
			C 学校関係者評価委員会を年1回実施した。											
			D 学校関係者評価委員会を実施しなかった。											
	学校のおよそや特色を積極的に情報発信と学校評価システムの構築を図り、保護者や地域住民から信頼される開かれた学校づくりを目指す。	各教科の授業公開を推進する。	常時学校開放と研究授業としての公開授業を設定する。	教務	毎月1回以上実施した。	A 毎月1回以上実施した。	3.2		学校は、授業公開を積極的に行うなど開かれた学校づくりに努めている。最終No.9	2.9	学校は、授業公開を積極的に行うなど開かれた学校づくりに努めている。最終No.9	3.2	年間を通して、常時学校開放を行い、全教科による研究授業を公開した。	次年度も常時開放し、研究授業を積極的に行っていく。
						B 年間6回以上実施した。								
						C 年間3回以上実施した。								
						D 年間2回以下だった。								
学校のホームページの一層の充実を図る。	情報教育	随時更新する。	A 週1回更新した。									情報教育担当を中心に、随時学校HPの更新をおこなった。	本年の取組を継続し、一層の充実を図っていく。	
			B 月に2回更新した。											
			C 月に1回更新した。											
			D 更新しなかった。											
校長通信や学年・学級通信等による積極的な学校の情報提供に努める。	各職員	校長通信・ホームページ・学年通信・学級通信を通して学校の情報を発信する。	A 月に2回以上、保護者に配布するとともに、市民センターや各自治会を通して全地域に回覧した。	3.5			校長通信(ジャガイモ)や学年通信・学級通信・ホームページなどを通して学校の情報発信をした。最終No.8	2.9	校長通信(ジャガイモ)や学年通信・学級通信などを通して学校の情報発信をした。最終No.8	2.9	校長通信・学年だより・学級だよりを定期的に発行し、広く保護者への情報提供を行った。	本年の取組を継続し、一層の充実を図っていく。		
			B 月に1回、保護者に配布するとともに、市民センターや各自治会を通して全地域に回覧した。											
			C 月に1回以上、保護者に配布した。											
			D 月に1回以上、保護者に配布できなかった。											

次年度への検討課題

◎高須中学校、高須小学校、青葉小学校、3校合同の「人間関係づくりプログラム」の研究開発、被災地への支援活動「人生一冊プロジェクト」や「地域清掃活動」「ケース会議」を積極的に取り組んで参ります。

◎性教育の一環として、助産師 内田美智子先生による講演会、人権教育の一環として車椅子のサックス奏者渡部昭彦氏による演奏会「神様からの贈り物」を開催します。

◎10月、植松電機専務取締役 植松努氏による講演会「どうせ無理を世の中から一掃したい!」と映画上映会「小惑星探査機はやぶさ～遙かなる帰還～」を行い、生徒に、将来に対する夢や希望を持たせ、生徒自らが自立していこうとする力を育てます。

後期保護者アンケートの評価は、上段は達成度下段は重要度を表す。